

日本ガイシの働き方改革

日本ガイシグループでは2017年4月に、65歳定年制導入、若手の賃金向上、非正規従業員の処遇改善など、多岐にわたる人事制度改定を実施しました。

当社が事業をグローバルに展開し、新製品や新規事業の創出を推進していく上で、中核を担う若手や中堅層への役割期待はこれまで以上に増していきます。この状況に対応するため、従業員が意欲を高めチャレンジし、その能力を十分に発揮できる環境を整えることを目的としています。

一方では、間接部門の生産性向上による競争力維持を目的として社外の専門家を招いて業務分析を行い、業務時間の使い方の効率化に取り組みました。

2018年後半から、クラウドサービスを利用した在宅勤務などを進めます。従来なら休暇を取る必要があった場合でも在宅勤務を可能にするなど柔軟な

働き方を実現していきます。人事制度や生産性向上に向けた取り組みを通じて従業員が自ら専門性を高め、グローバルに活躍する自立した人材に成長してくれることを後押ししていきます。



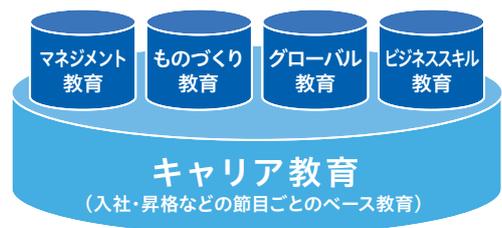
執行役員 人事部長 山田 忠明

人材育成

日本ガイシは人を最も大切な経営資源と位置づけ、従業員の意欲と向上心を尊重しつつ、次代を担う人材の育成に取り組んでいます。近年は、マネジメント層を担うリーダー人材や、事業の海外展開に伴うグローバル人材の育成に力を入れています。

2017年度には、定年延長や両立支援などの人事制度改編に伴い、人材を一層活性化し業務での活躍を期する施策に注力しています。具体的には、シニア層に対する自律的なキャリアデザインを促す研修や、ダイバーシティ促進のための、基幹職向け講演会や部下との面談スキル獲得のための研修を行いました。

4つの分野で体系立てた人材育成を推進



約120種のプログラムで機能的な教育を推進

入社・昇格などの節目ごとに実施するキャリア教育をベースに、「マネジメント教育」「ものづくり教育」「グローバル教育」「ビジネススキル教育」の4分野で研修を設定し、計画的な人材育成に取り組んでいます。階層別の必修研修以外にも、年間を通じて約120種のプログラムを導入しています。

「マネジメント教育」では、マネジメントの基礎を学ぶ「マネジメント基礎研修」や、シニア層に対して自律的なキャリアデザインを促す「50代キャリアデザイン研修」などを行っています。「ものづくり教育」では、現場力強化や監督者教育などのカテゴリーで研修を開催するほか、若手向けに材料、成形、加工、乾燥・焼成などセラミック製造の基礎教育も継続して実施しています。「グローバル教育」では、異文化理解等のマインドセット、プレゼンテーション、国際法務・労務管理等のビジネススキルや、健康・安全管理、コンプライアンスに関する研修を実施し、併せて各種外国語研修を行っています。

「ビジネススキル教育」としては、会社のニーズに基づく研修だけでなく、他社との研修を通じた交流の機会の提供など、普段の業務では経験できないさまざまな成長機会を提供する施策の企画・実施に取り組んでいます。

技能職向け品質改善研修

従業員の若年化や、中途入社などさまざまな経歴を持つ従業員の増加に伴い、多様な研修ニーズをカバーする研修プログラムが必要となっています。こうした状況を鑑み、受講者の職種や経歴に応じた5つの内容のクラスで技能職向け品質改善研修を実施し、各受講者の理解レベルや職種に応じた内容の学習と課題演習を行っています。

定量的な指標で人材育成の成果を測る

人材育成の成果を客観的に評価するため、定量的な指標を導入しています。客観的な評価により、従業員の能力開発をさらに加速することが狙いです。

現場リーダー層の人材育成

主体的に改善に取り組むリーダー層を育成し、現場力の強化を図る研修を計画的に進めています。製造業の原点に戻って安全・環境・品質・納期・コストを見つめ直し、工場の枠組みを超えて連携しながらの実施です。

2017年度の品質改善に関わる研修の受講人数

現場力強化リーダー研修	10人
現場力強化石川工場リーダー研修	7人
現場力強化修了生フォロー研修	144人
現場力強化インストラクター養成研修	2人
現場力強化インストラクターブラッシュアップ研修	8人
現場のIE基礎	12人
QC教育Ⅰ(初歩)	29人
QC教育Ⅱ(気づき)	76人

人材育成の成果を図る定量指標

- ・研修後の受講アンケートの理解度、満足度調査の実施
- ・TOEICやネイティブ講師によるレベルチェック
- ・研修中、研修後のテスト
- ・算出されたロスコスト
- ・審査員による審査評点 など

現場力の強化を図る研修の歩み

2013年度

リーダー研修修了者の中から12人が受講。これまでに養成した13人を加え総計25人のインストラクターを養成。

2014年度

養成したインストラクターのブラッシュアップ研修を開催。2013年度までにインストラクター養成研修を受講した修了生のうち21人が参加。さらにスキルを高めるため、改善活動事例の相互紹介と全工場から集めた事例を整理して社内事例集を作成。

2015年度

社内インストラクター養成研修の修了生がリーダー研修の講師を務め、自身が担当する研修プログラムの内容と構成について現場での指導経験を生かして企画。原価低減の改善の進め方などを、事例を通して指導。

2016年度

現場力リーダー研修では、社内講師による研修内容の見直しを実施し、個別指導がより行き届くように改善。改訂したテキストはグループ会社とも共有。

2017年度

日本ガイシグループ連携で講師派遣や現場実習を行い、グループ会社間交流による学びの場を設けた。インストラクターによる海外での指導トライも開始。

ダイバーシティ

日本ガイシグループは、人種、国籍、信条、性別、障がいなどによらず、雇用の安定と機会均等を基本方針に多様な人材を登用しています。また、従業員の自主・自立を促すことを目指し、会社への貢献度に応じて公正に処遇するとともに、必要な人事制度の構築に取り組んでいます。

日本ガイシ 新卒採用 ※新卒紹介予定派遣は除く

(単位:人)

入社	大卒			短大・専門 学校卒	高卒他
	計	男性	女性		
2014年4月	36	28	8	0	20
2015年4月	38	29	9	0	30
2016年4月	94	67	27	0	60
2017年4月	65	50	15	0	46
2018年4月	104	72	32	0	51

日本ガイシ 中途採用

(単位:人)

入社	合計				
	計	大卒男	大卒女	その他 男	その他 女
2013年4月~2014年3月	7	3	1	3	0
2014年4月~2015年3月	49	15	4	30	0
2015年4月~2016年3月	200	69	12	116	3
2016年4月~2017年3月	158	66	15	73	4
2017年4月~2018年3月	135	58	12	63	2

ダイバーシティ推進体制

人事部が中心となってダイバーシティを推進しており、近年は介護支援や女性活躍推進などに力を入れています。

また、昇格時の研修などで人権に関する冊子を配布するなど啓発に努めるとともに、人権課題の相談窓口としてヘルプラインを設置しています。

女性の活躍を推進

性別を問わず意欲と能力のある人が、持てる力を発揮する機会を増やすよう努めるとともに、女性が働きやすい環境づくりに取り組んでいます。日本ガイシの女性基幹職(管理職)は、2017年度で17人となっています。

キャリア相談窓口の設置

女性ならではのキャリアの悩みをいつでも相談できるように、2016年3月から社内に専用の相談窓口を設けました。キャリアカウンセラーの資格を持つ従業員が秘密厳守で相談に乗り、キャリアアップの支援を行っています。2017年5月からは、女性に限定せず全社員を対象に相談を受け付けています。

女性基幹職(管理職)比率

	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3
女性従業員比率※1	13.3%	12.9%	12.6%	12.7%	12.5%
女性基幹職比率※2	1.5%	1.8%	1.8%	2.0%	2.0%
女性一般職比率※3	16.6%	16.1%	15.6%	15.5%	15.1%

海外グループ会社の女性管理職比率 (2018年3月末現在)

	欧州	北中米	アジア	その他
女性管理職比率	7%	17%	25%	29%

※1 全従業員に占める割合。 ※2 全基幹職に占める割合。

※3 全一般職(非基幹職)に占める割合。

社会貢献活動

世界各国からの留学生が、暮らし、学び、笑う

～日本ガイシインターナショナルハウス～

世界10カ国から来た40人の留学生がここで暮らし、勉学に励み、友情を育んでいます。



「週末以外は毎日23時まで研究室にいます。この部屋は机も広くて勉強しやすい。疲れたときには部屋のベランダに出て風に当たります。自然が好きなので、森や草花が見えたりするのはうれしいですね」と語るのは、ウガンダからの留学生、アカンドウワナホ・エドウィンさん(写真右)。名古屋大学大学院環境学研究科で、道路交通について研究しています。

イタリアから来たファビアニ・アレクシアさん(写真左)は、名古屋大学理学部で物理学を学んでいます。「ここは安全で静かだし、住人も皆優しい。一人暮らしだと友達もできにくいですが、ここならできるし、すぐ会えます」。休みの日には留学生が集まって、共用キッチンで料理を作ります。「よく作るのは、ピザやパスタのようなイタリア料理。ベジタリアンなので、卵も肉もなしですけどね」。作ったものを交換し合うこともよくあるそうです。

日本ガイシは、国際社会の発展に貢献する人材育成への寄与を目的に、一般財団法人日本ガイシ留学生基金を設け、日本を訪れる海外からの留学生に対する宿舍提供や奨学金支給を柱とする支援活動を続けています。

この活動は、日本ガイシが世界へ進出した当時から、海外へ赴任した従業員やその家族が現地で温かい支援を受けたことへの感謝の気持ちから始まったものです。

個室以外にも、大人数で食事ができるダイニングや夜間も自由に利用できるスタディールーム、イベントに使えるホールがあり、全館にWi-Fiを完備しています。留学生に安心安全な生活環境と、最適な勉学環境を整え、地域住民とも親しめるよう、留学生による語学講座や異文化交流会も開催しています。

実績

支援留学生の数 **806**人(1997～2017) 語学講座・異文化交流会の参加者累計 **964**人(2000～2017)

当社の社会貢献活動についての詳細は、右記リンク先をご覧ください。 <https://www.ngk.co.jp/sustainability/>